

REPORT 2023



ちばSDGs
ちばSDGsパートナー 468号

東京ベイ信用金庫

TOKYO BAY SHINKIN



お問い合わせ先

東京ベイ信用金庫 総合企画部 〒272-8603 市川市新田4-9-2 Tel.047 (703) 2113
ホームページ <https://www.bayshin.co.jp>

つなぐ未来 つくる未来

CONTENTS

ごあいさつ	1
業績ハイライト	3
トピックス	5
東京ベイ信用金庫について	6
「安心」「安全」にお取引いただくために	22
資料編	32
開示項目一覧	52



ごあいさつ

平素は東京ベイ信用金庫に格別のご愛顧とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

地域の皆様に経営内容や様々な経営活動を知っていただくため、ディスクロージャー誌「REPORT 2023」を作成いたしました。ご高覧のうえ、当金庫への一層のご理解をいただければと存じます。

さて、昨年度を振り返りますと、オミクロン株の感染拡大による生産活動の停滞やロシアのウクライナ侵攻も相まって、世界規模でインフレが加速しました。国内経済においては、コロナ禍からウイズコロナへと正常化への歩みを進める中、個人消費には持ち直しの動きが見られたものの、急激なインフレは日常生活にも大きな影響を及ぼしました。

こうした状況の中、当金庫は、中期経営計画「未来」の基本方針で定めた「Face to Faceへの『原点回帰』」、「内部管理態勢強化による『将来にわたる健全性』の確保」に役職員一丸となって取り組んでまいりました。

「Face to Faceへの『原点回帰』」では、対面機会の増加を通じ、事業者の現状把握と経営課題解決に努めました。また、取引先のSDGs達成に向け、SDGs私募債発行の引受を進めたほか、信金中央金庫の実施する「SCBふるさと応援団」に市川市の「子どもたちの『食の環境』を守る取り組み」を推薦し、採択されました。地元大学・企業などで構成する「大学コンソーシアム市川」では、共通講義「市川学」等を通じ、地域の歴史や魅力を発信しました。

「内部管理態勢強化による『将来にわたる健全性』の確保」では、金融市場の変動が大きくなる中、市場リスク管理を機能させた運用に努めたほか、マネー・ローンダリング・テロ資金供与対策への態勢整備を進めました。

第96期決算につきましては、預金残高は前期比70億円減少の5,844億円、貸出金残高は前期比16億円増加の3,615億円となりました。また、金融機関の本業の収益力を示す業務純益は14億円、経常利益は17億円、当期純利益は9億円をそれぞれ計上いたしました。

なお、自己資本比率は、前期末比0.31%上昇の9.54%となりました。国内基準である4%を引き続き大幅に上回り、高い健全性を維持しております。

令和5年度は中期経営計画「未来」の最終年度となります。重点施策の一つでもある店舗の環境整備に向け、砂町支店（東京都江東区）については、令和6年のリニューアルオープンに向け、建替え工事を進めております。また、本店（千葉県市川市）についても、令和10年の創立100周年に向けて建替え事業を本格的にスタートさせる予定です。

当金庫の基本理念である「東京ベイエリアの発展」に立ち返り、皆様の声にさらに耳を傾け、お客様本位の業務運営に徹し、地域金融機関としての使命を果たしてまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月

理事長 酒井正平



令和4年度業績ハイライト

中期経営計画「未来」の第2年度である令和4年度は、2つの基本方針を掲げて活動してまいりました。

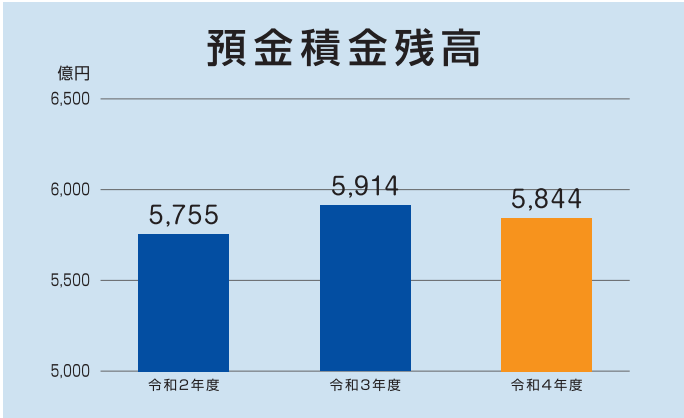
基本方針Ⅰ「Face to Faceへの『原点回帰』」では、事業者の経営課題がコロナ禍による売上減少からインフレ、円安等に伴う原材料や資材等の価格高騰へと変化する中、事業者との対面機会の増加を図り、現状把握と課題解決に努めました。

基本方針Ⅱ「内部管理態勢強化による『将来にわたる健全性』の確保」では、金融市場の変動が大きくなる中、市場リスク管理を機能させた運用に努めたほか、マネー・ローンダリング・テロ資金供与対策への態勢整備を進めました。

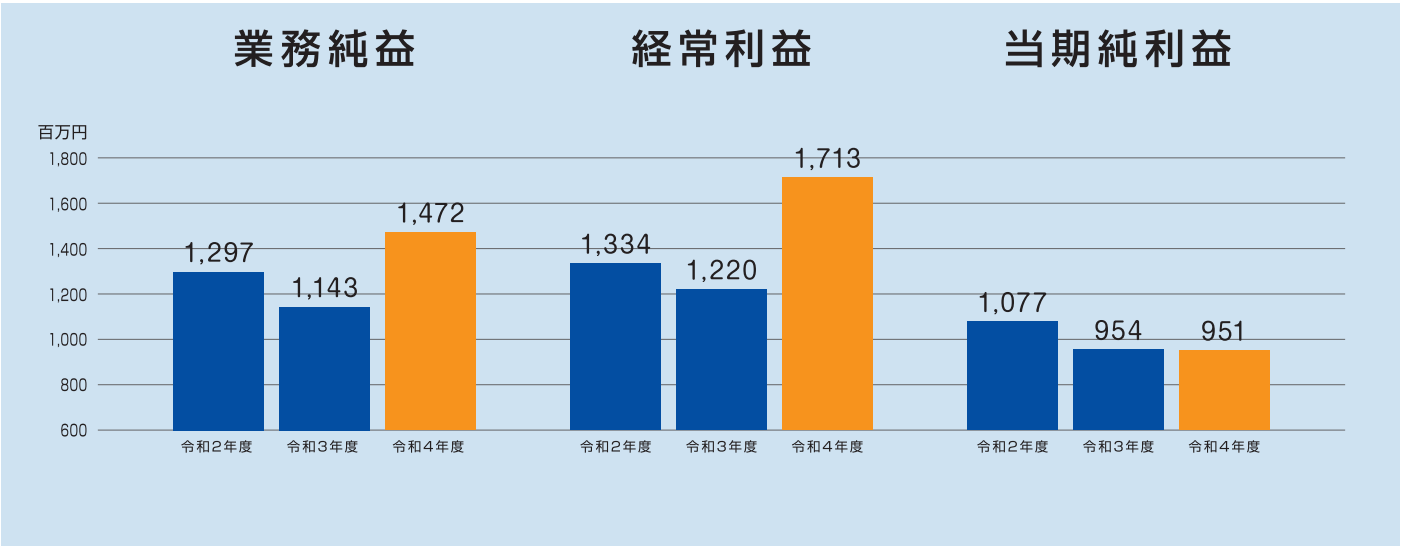
主要な経営指標3か年推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
預金積金残高	575,546	591,425	584,421
貸出金残高	361,611	359,929	361,536
有価証券残高	46,750	56,982	62,198
純資産額	25,974	26,157	26,246
総資産額（注）	646,089	675,180	665,520
経常収益	7,657	7,366	7,602
業務純益	1,297	1,143	1,472
経常利益	1,334	1,220	1,713
当期純利益	1,077	954	951
単体自己資本比率	9.00%	9.23%	9.54%

（注）残高・計数は期末日現在のものであり、総資産額には債務保証見返は含んでおりません。



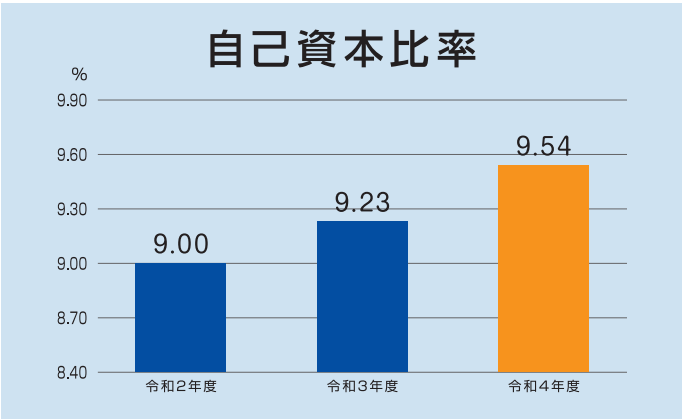
預金積金残高は、前期比70億円減少の5,844億円となりました。貸出金残高は、コロナ過やインフレ、原材料高騰に伴う資金ニーズに対応した結果、前期比16億円増加の3,615億円となりました。預金に占める貸出金の割合を示す預貸率は、61.86%となりました。



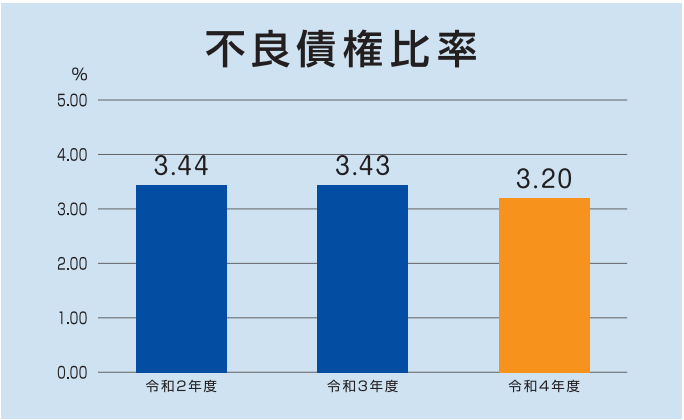
金融機関の主要な活動による利益である業務純益は、貸出金利息や有価証券利息配当金等の資金運用収益積み上げにより、前期比329百万円増加の1,472百万円となりました。

業務純益の増加等により、経常利益は、前期比493百万円増加の1,713百万円、当期純利益は、砂町支店をはじめとする店舗建替え関連費用計上により、前期比3百万円減少の951百万円となりました。

今後も預金積金・貸出金を中心とした金融サービスの提供に徹し、地域のお客様に愛される信用金庫を目指してまいります。



自己資本比率は、金融機関の健全性を示す重要な指標の一つです。令和4年度末における自己資本比率は、前期比0.31%上昇し9.54%となりました。国内基準である4%を大きく上回っており、お客様に安心してお取引いただける経営体力を保持しております。今後も自己資本の充実を進め、健全性をさらに高めてまいります。



不良債権比率は、前期比0.23%低下し3.20%となりました。外部機関と連携しながら、お客様が抱える課題の解決支援に積極的に取り組み、不良債権の発生防止と早期解消に取り組んでまいります。



令和5年度新入職員（令和5年4月8日、36名）



社会福祉法人市川市社会福祉協議会へ食品を寄付しました。
（令和4年7月5日）



市川税務署・松戸税務署・柏税務署と協働でインボイス説明会を開催しました。（令和5年1月～2月）



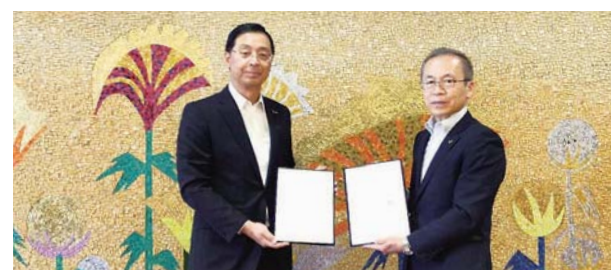
大野支店、流山支店、馬橋支店、船堀支店で防犯訓練を行いました。
（令和4年11月15日、17日、18日、21日）



東海大学付属浦安高等学校中部で「金融・防犯・防災教育講義」を実施し、学生166名が参加しました。（令和5年3月2日）



千葉商科大学で「ビジネス探究」講義を実施し、学生59名が参加しました。（令和4年11月17日）



船橋市と空家等対策推進に関する協定書を締結しました。
（令和5年5月24日）



松戸市立金ケ作中学校で職業講演会を実施し、2年生47名が参加しました。（令和4年11月22日）



優績店舗5グループ、7店舗および成績優秀者15名が表彰されました。
令和4年度業績評価表彰式（令和5年6月15日）



東京ベイ信用金庫について

組織図	7
役員	7
東京ベイ信用金庫のあゆみ	8
店舗のご案内	9
さまざまなニーズにお応えするために	11
SDG s 宣言	15
東京ベイ信用金庫と地域社会	16
中小企業の経営の改善のための取組の状況	17
各種手数料のご案内	19